



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



年頭にあたり

歯学部長 宮崎 隆

新年おめでとうございます。皆さまにおかれましては、おすこやかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

いよいよ平成も最後の年になりました。30年前に小淵官房長官(当時)が「平成」と書かれた額を掲げたのを思い出します。当時の説明では、「平成」は、書経の「地平天成(地平かに天成)」、さらに史記の「内平外成(内平かに外成)」から引用され、「天地、内外ともに平和が達成される」と期待されました。



しかし、今の安倍政権は長期化しているものの、国内においては政権交代が目まぐるしくあり、17名の首相が短命で、首相の名前を覚えられないと揶揄されました。国内外で災害やテロ、戦争が続発し、平和よりも落ち着かない時代だったと思います。

大学教育や医療を取り巻く環境も激変の時代でした。医学教育同様に歯学教育においても、共用試験の導入、卒業研修制度の開始など戦後に導入されたシステムが大幅に変わりました。さらに医学では新しい専門医制度がスタートし、歯学でも検討が始まりました。

教育改革の中で、FDワークショップが開催され、教員はカリキュラムプランニングとして、一般目標、到達目標、方略、近年はコンピテンシーなど米国式の新しい概念を理解するのに苦労しました。教育現場では能動的学習が推奨され、PBLチュートリアルが導入され、パソコンやネットワークの普及によりITを利用した教材が活用されています。医学教育では国際医学教育連盟のスタンダードに合致するカリキュラムに変わりました。

研究に関しては、研究成果を日本語論文で公表するのでは相手にされなくなり、国際誌への投稿が増え、オンラインジャーナルが普及しています。日本の学会でも和文誌は、原著論文だけでは背表紙が立たなくなっています。

社会の変革は教育や医療にも押し寄せ、グローバル化とデジタル化が時代のキーワードになっています。本歯学部では教育にIT教材を活用し、臨床現場

ではナビゲーション手術やCAD/CAMを活用しています。しかし、グローバル化はまだ十分ではありません。

世界ランキングを見ても香港大学をはじめ、アジアの主要大学が軒並み上位を占めているのに、日本の大学は低迷しています。真の実力が無いわけではなく、グローバル化に乗り遅れているのが実情でしょう。今後、日本の活力を維持していくためには、あらゆる領域でグローバル化の進展をやり遂げなくてはならないと思います。

まもなく新しい元号が発表されます。新しい時代が平和で平穏な時代になることはもとより、本学歯学部が教育・研究・診療においてグローバル化とデジタル化の流れに遅れず、世界の中でプレゼンスを示すことができるように頑張りましょう。

OSCE が実施されました

OSCE 委員会 委員長 菅沼 岳史

平成31年度共用試験OSCEが、平成31年1月13日(日)に歯科病院において実施されました。評価・運営に関わったスタッフは、教職員154名、SP15名、機構監督者2名、外部評価者6名の合計177名で、歯学部4年生106名の学生が受験しました。

今回は、松葉杖による受験者(想定内)と途中のステーションで気分が悪くなり、一時的に試験を離脱して最後に組み込んで受験をした学生(想定外)のトラブルがありました。何とか無事に終了し再試験の対象学生はいませんでした。

また、今年度からは受験生には、全ての課題を試験開始前に提示することとなり、ステーションの移動中に課題が学生の目に入らないようにする必要がなくなったことで、前日の試験会場の設営が容易になりました。

OSCE終了後の反省会において、運営面に関していくつかの問題点が指摘されました。解決の難しい問題もありますが、歯科病院という限られた環境の中で公平かつ効率よくOSCEが実施できるように、次年度の委員会でこれらの問題点を検討し、改善していきたいと思っています。

週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力頂き、ありがとうございました。なお、次年度のOSCE開催は、2020年1月12日(日)です。



白菊会連合会平成30年度総会が開催されました

口腔解剖学講座 中村 雅典

平成30年12月2日(日)に大井町の品川区立総合区民会館(きゅりあん)大ホールにおいて白菊会連合会総会が開催されました。本年度は昭和大学歯学部が主幹校として開催の準備をさせていただきました。当日は幸いにも快晴で、参加9大学12学部から945名の会員が出席されました。昭和大学歯学部白菊会からも50名の会員が参加されました。午後2時開場となり、各大学解剖学講座の教職員ならびに当番校である私共昭和大学歯学部の2年生が会員をお出迎えしました。

総会は本年度主幹の昭和大学歯学部を代表して中村による開会の辞の後、物故会員への黙祷を捧げました。次いで、昭和大学学長小出良平先生による挨拶、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長佐藤達夫先生、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長の祝辞、白菊会連合会事務局長からの会務報告が行われました。最後に次期当番校である杏林大学医学部解剖学教室の松村讓児教授が閉会の辞を述べ、総会は終了しました。

その後のアトラクションとして、昭和大学 Medical All Stars によるジャズのスタンダードナンバーの演奏を楽しんでいただきました。会員の多くの方からはお帰りになる際に、とても素晴らしい演奏で元気をもらうことができましたとのお褒めの言葉をいただきました。

次年度は、12月1日(日)に同ホールでの開催を予定しています。



海外選択実習の現状と展望

国際交流担当 桑田 啓貴

国際交流委員会では歯学部6年次4月に行われる海外選択実習への学生参加を積極的に推奨しています。北米の大学は例年人気が高く、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)、南カルフォルニア大学(アメリカ)へ派遣しています。加えてヨーロッパの大学では今年度から、ウイーン医科大学(オーストリア)とサラゴサ大学(スペイン)が受入を始めます。ウイーン医科大学はこれまでも昭和大学とは共同研究を通じて交流してきましたが、昨年歯学部学生交換協定が締結され、いよいよ実質的な学生交流が行われます。その他、アジアの歯学部とも交流を深めています。慶熙大学(韓国)、台北医科大(台湾)、トリサクティ大学、マハサラワティ大学(いずれもインドネシア)、香港大学(香港)と定期交流が行われています。これらの受け入れ大学はどれも世界有数の大学です。学生の時に世界の大学を直に体験することは将来の進路を考える上でも有益です。



今年度より、これらワールドクラスの大学との友好関係をさらに安定的なものとするため、成績優秀者を優先的に選抜し派遣することとします。英語のコミュニケーション能力に加えて、歯学部2年から4年までの成績や順位、出席率などを考慮します。英語試験としては大学で実施している TOEIC(IP)を英語能力の判断基準として用います。必要点数は TOEIC550点とします。例年11月に国際交流委員による最終面接が行われ、海外選択実習の志望動機や過去の国際交流参加経験などが質問され、参加学生を選抜します。直前に英会話の勉強を始めると上達まで時間がかかりますので、将来参加を考えている学生は低学年の頃から準備してください。入学後に英語学習を真剣に行ったかどうか参加実現の鍵となります。また、語学力のみならず外国文化についての知識、経験も必要です。低学年の時に春休み期間に実施予定のポートランド州立大学語学研修へ参加するのが良いでしょう。



歯学部5年生 3大学学生交流会が開催されました

高齢者歯科学講座 桑澤 実希

平成31年1月11日(金)に3大学学生交流会が歯科病院臨床講堂で開催されました。本交流会はSkypeを利用し、岩手医科大学と北海道医療大学の歯学部5年生と自学の特色的な実習内容を発表し、質疑応答を行い交流するものです。「超高齢社会に対応できる歯科医師の育成」に関する実習がテーマとなっています。

今年度は、野田和孝、前嶋康平、三木優、南 えりかの4名が本校の代表となりました。学生は平成30年7月に開催された日



本歯科医学教育学会学術大会に参加し、ポスター発表を行いました。その夜には、3大学学生交流のメンバーが小料理屋に集い交流会をしたおかげで、当日は終始和やかな雰囲気の中で進行され、質疑応答も盛り上がりました。インターネットの発達した現代ですが、やはり人は顔を合わせて話合うことが必要で、そういった地道な下準備あってこそ当日の成功があるのだと再確認しました。指導を務められた全大学の教員の応援があり、教育学会を経て交流会が成功し、学生の見聞が広がったと思うと、しみじみ教員冥利に尽きると感じます。

今年度の学生もまた、前向きに取り組みましたが、特筆すべきはアンケートを事前に実施して学生の意見を広く集めて交流会に臨んだことでしょうか。学生の前向きな姿勢と能力の高さに驚かされました。

本交流会では、他大学の実習プログラムは、歯科医師育成のために様々な工夫が凝らされていることを知ることができます。昭和大学もまた、日本に誇る学生教育を行っているということがわかる機会でもあります。もっと多くの人に参加してもらえたら楽しいと思います。



3大学学生交流におけるSkype討論を終えて

歯学部5年 野田和孝, 前嶋康平,
三木 優, 南 えりか

平成31年1月11日(金)に3大学学生交流におけるSkype討論が歯科病院臨床講堂で行われました。この討論では昭和大学、北海道医療大学、岩手医科大学の3大学の学生がITを用いた共通のプログラムを受講し、その結果がそれぞれの大学の臨床実習の場でどのように活かされているのかをSkypeを用いて討論しました。私達は昨年7月に福島県郡山市奥羽大学キャンパスにて行われた日本歯科医学教育学会でのポスター発表を元に「ITを用いた3大学連携準備教育を踏まえた昭和大学における学部連携教育の経験」というタイトルで発表しました。



北海道医療大学の発表では、雪が多い地域での在宅診療や衛生士学校との連携PBLなどが、岩手医科大学の発表では被災地での医療、防災訓練、学生外来などの発表が印象に残りました。また、事前に教育学会にてそれぞれの大学の学生と交流もあったため、質疑応答も弾み、非常に有意義な討論となりました。



この1年を通して教育学会への参加やSkype討論など貴重な経験を果たしたことで、それぞれの大学でその土地に必要な教育プログラムや特色ある臨床実習があることを学ぶことができました。

最後になりましたが、この1年間サポートしていただきました先生方、またご支援いただきました歯学部同窓会の先生方に御礼申し上げます。

認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

●日本歯科麻酔学会 認定医

【全身管理歯科学 歯科麻酔科部門:9名】

北村安里, 吉田優子, 奥村のり子, 福井梨恵, 山田めぐる, 石田 碧, 栗原由佳, 堀江 恵, 加藤 紫

●日本歯科麻酔学会 専門医

【全身管理歯科学 歯科麻酔科部門:6名】

中野寛子, 立川哲史, 川本弓育, 八尾敬子, 斉藤理絵子, 田口明日香

選抜 I 期入試が実施されました

入試支援課 鳥山 ちひろ

平成31年度歯学部一般選抜入試 I 期・大学入試センター試験利用入試 A 方式が、1月24日(木)に東京試験場、大阪試験場、福岡試験場の3試験場にて薬学部、保健医療学部と同日に実施されました。

今年度の志願者数は、一般選抜入試 I 期(44名募集)が529名(昨年度480名より49名増加)、大学入試センター試験利用入試 A 方式(10名募集)が一般選抜入試 I 期との併願を含む222名(昨年度194名より28名増加)、大学入試センター試験利用入試 B 方式[地域別選抜](各地域1名、計6名募集)が23名(昨年度8名より15名増加)でした。また、今年度より医学部一般選抜入試 I 期利用の歯学部併願入試(3名募集)を実施することになり、志願者数は106名と、歯学部には全国からたくさんの方の出願がありました。

試験当日は天候にも恵まれ、各試験場とも特に大きなトラブルもなく、各学部教職員の方々のご協力により無事終了することができ、1月28日(月)に一般選抜入試 I 期の合格者を発表いたしました。多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。また、1月30日(水)に医学部一般選抜入試 I 期利用の歯学部併願入試の一次、2月6日(水)に大学入試センター試験利用入試 B 方式一次、2月7日(木)に大学入試センター試験利用入試 A 方式の合格者を発表いたします。

さらに、2月2日(土)・3日(日)には医学部一般選抜入試 I 期利用の歯学部併願入試の二次試験、2月11日(月・祝)には大学入試センター試験利用入試 B 方式[地域別選抜]二次試験が旗の台キャンパスにて実施されます。

昨今、歯学部の志願者獲得が厳しい中での志願者数増加は、教職員の皆さまの日々の入試広報活動の成果が実を結んだ結果と思われるます。また、入学試験の運営・実施にご協力を賜り、心から厚く御礼を申し上げます。

引き続き3月3日(日)には、一般選抜入試 II 期が行われますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



大学入試センター試験が実施されました

入試常任委員 山本 松男

平成31年1月19日(土)、20日(日)の週末2日にわたって独立行政法人大学入試センターが実施する大学入学者選抜大学入試センター試験(以下、「センター試験」)が実施され、全国の志願者数は57万6830人でした。高校学習指導要領の変更により、センター試験としての実施は今回と来年度の2回だけとなりました。本学では10年前から共立女子大学と共同で実施しています。今年は日本海側や北海道を中心に大雪が続いていましたが、関東では晴天が続き、大きな混乱もなく無事終了しました。本学の体制としては、入学支援課を核に4学部や学事部から多くの教職員に運営や監督業務の協力をいただいています。共立女子大学の会場で受験をした受験生が必ずしも本学を受験するとは限りませんが、センター試験利用の受験種別をもつ実績に応じてセンター試験運営を支えるという仕組みになっています。

歯学部ではセンター試験利用としてセンター試験利用入試 A 方式10名(英数理3科目+面接)、B 方式6名(英数理2科目+国社+小論文+面接、全国6ブロック制)を実施しております(II期センター利用入試は今回から廃止)。

教職員の皆様におかれましては、日頃の学生教育や診療に加えて、試験当日は朝早くからご協力をいただき誠にありがとうございました。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 2月2日(土)・3日(日):
 - ・第112回歯科医師国家試験
 - ・医学部一般選抜入試(I期)利用併願入試2次試験
- 2月11日(月):
 - ・大学入試センター試験利用入試(B方式:地域選抜)2次試験
- 2月16日(土):
 - ・平成31年度春季II期大学院歯学研究科入学試験
 - ・平成30年度第3回外国語試験
- 2月17日(日):歯学部合格者ガイダンス
- 2月22日(金):歯学部白衣授与式

編集後記

口腔解剖学講座 野中 直子

平成最後のお正月、いかがお過ごしでしたでしょうか。平成の30年を振り返ってみると、色々なことがあったと思います。新元号が決まり、新しく始まる時代が、皆様にとってまた昭和大学にとって輝かしい時代となりますようにお祈りしております。

入試のお忙しい時期に、原稿執筆にご協力いただいた方々に感謝いたします。

